

算 数

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書 ◆	算数 101・102 201・202 301・302 401・402 501・502 601	B5 ※ 101のみA4 1,656	平成31年
4	大日本図書	大日本 ◆	算数 103 203 303 403 503 603	B5 1,528	
11	学校図書	学 図 ◆	算数 104・105 204・205 304・305 404・405 504・505 604・605	AB 1,764	
17	教育出版	教 出 ◆	算数 106 206・207 306・307 406・407 506 606	B5 1,704	
61	新興出版社啓林館	啓林館 ◆	算数 108 208・209 308・309 408・409 508 608	B5 1,700	
116	日本文教出版	日 文 ◆	算数 110・111 210・211 310・311 410・411 510・511 610	B5 1,734	

※ 「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

校 種		聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
観点	児童の実態	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
	1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	・視覚的な方法等を活用して、作業や体験等の学習活動が工夫できるもの。	・上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ・生活に結び付いた学習活動が示されているもの。
	2 障害への配慮を要する内容等について	・言葉や音を聞き取る活動があり、作業や体験等の学習活動に困難が想定されるもの。	・上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他	・聴覚の障害を補えるように、写真、図表等で視覚的に説明しているもの。 ・学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	・通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ・写真、図表等で視覚的に説明されているもの。 ・ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。

小学部 算数(聴覚障害特別支援学校)

	発行者	東書	大日本	学図
内	各単元の領域別の分量数と計算 ページ数	654	644	689 最多
	各単元の領域別の分量図形 ページ数	272	255	296 最多
	各単元の領域別の分量測定 ページ数	79	84	102 最多
	各単元の領域別の分量変化と関係 ページ数	107 最多	87	105
	各単元の領域別の分量データの活用 ページ数	86 最少	98	115 最多
	各単元の練習問題の数(単元内)	2963	3886	4003 最多
	巻末における児童の習熟に応じた練習問題のページ数	110.5	65 最少	115.5
	そろばんを扱ったページ数	5 最少	5 最少	7 最多
	プログラミング教育を取り上げているページ数	4	8	12 最多
	発展教材の数	22 最少	27	23
	学習したことを生活や学習に活用する教材の数	72	66	59
容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①視覚的な方法等を活用して、作業や体験等の学習活動が工夫できるもの。	29箇所 ①1年②の「あわせていくつ」では、ブロックを実際に動かす活動と視覚的な動作が示してある。(P3)	28箇所 ①3年「わり算」では、トレーのイラストを掲載し、その上におはじきなどを実際に分ける活動を取り上げている。(P61)	35箇所 ①4年上「垂直・平行と四角形」では、身の回りにある垂直なものや平行なものを探す活動が取り上げられている。(P81)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、作業や体験等の学習活動に困難が想定されるもの。	1箇所 ①5年下「いかしてみよう」では、雷が光ってから音が聞こえるまでの時間で、距離を計算する活動があり、困難がある。(P40)	6箇所 ①1年「10までの数」では、声に出して言う活動があり、困難がある。(P27)	1箇所 ①5年上「倍数と約数」では、友達と手をたたくことで公約倍数を体験する活動があり、困難がある。(P130)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 10.5ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 13ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 22文字×3行 6年最後 26文字×12行	1年最初 18文字×16行 6年最後 32文字×26行	1年最初 19文字×15行 6年最後 35文字×19行
	欄外の文字の大きさ	1年 16ポイント 6年 9.5ポイント	1年 13ポイント 6年 9ポイント	1年 12ポイント 6年 9ポイント
	ふりがな	初出有	初出有	初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図表等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記載されたもの。	①3年下「三角形と角」では、図の中で、説明文に対応した箇所に色を付けて示してある。(P84) ②5年下「四角形と三角形の面積」では、学習のポイントが図、公式でまとめられ、さらに重要語句は太字や下線で強調して示してある。(P61)	①4年「式と計算」では、言葉の式を併記している。(P75) ②2年から6年までの巻末に、前学年までの既習事項をまとめて示してある。	①1年上「のこりはいくつ、ちがいはいくつ」では、文章題の内容を絵で示してある。(P54) ②各単元のポイントを「まとめ」として、枠囲みで示してある。(2年上P82など)

小学部 算数(聴覚障害特別支援学校)

発行者		教出	啓林館	日文	
内	各単元の領域別の分量 数と計算 ページ数	652	594 最少	631	
	各単元の領域別の分量 図形 ページ数	276	249 最少	259	
	各単元の領域別の分量 測定 ページ数	90	77 最少	80	
	各単元の領域別の分量 変化と関係 ページ数	93	92	77 最少	
	各単元の領域別の分量 データの活用 ページ数	104	92	98	
	各単元の練習問題の数(単元 内)	2842	2979	2693 最少	
	巻末における児童の習熟に応じ た練習問題のページ数	85	105.5	182 最多	
	そろばんを扱ったページ数	7 最多	7 最多	7 最多	
	プログラミング教育を取り上げて いるページ数	2 最少	12 最多	5	
	発展教材の数	32	22 最少	35 最多	
	学習したことを生活や学習に活 用する教材の数	54 最少	134 最多	65	
	容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むこと ができる単元等について ①視覚的な方法等を活用して、 作業や体験等の学習活動が工夫 できるもの。	30箇所 ①3年上「長さ」では、まきじゃく を使って、教室の長さや水筒の 周囲の長さなどを実際に測定す る活動がある。(P68)	33箇所 ①3年上「重さ」では、ペットボ トル飲料やカバンなど、身の回 りの物品の重さを量る活動が示 してある。(P118、119、120)	36箇所 ①3年上「時間の計算と短い 時間」では、ストップウォッチ を使って10秒間や30秒間などを 体験する活動が取り上げられて いる。(P45)
		聴覚障害への配慮を要する 内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が あり、作業や体験等の学習活動 に困難が想定されるもの。	1箇所 ①5年上「単位量あたりの大き さ」では、雷が光ってから音が 聞こえるまでの時間で、距離を 計算する活動があり、困難が ある。(P281)	4箇所 ①3年上「短い時間」には、歌 を歌う活動が示されており、 困難がある。(P57)	3箇所 ①1年上「いくつといくつ」で は、タンバリンをたたいた数と 同じ人数で集まる活動が示さ れており、困難がある。(P33)
	構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 18ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 17ポイント 6年最後 13ポイント
1ページの基本的な文字数		1年最初 16文字×3行 6年最後 26文字×16行	1年最初 12文字×2行 6年最後 26文字×14行	1年最初 18文字×14行 6年最後 30文字×25行	
欄外の文字の大きさ		1年 12ポイント 6年 9.5ポイント	1年 16ポイント 6年 10ポイント	1年 12ポイント 6年 8.5ポイント	
ふりがな		初出有	初出有	初出有	
障害の状態に応じた事項、 その他 ①聴覚の障害を補えるよう に、写真、図表等で視覚的に 説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな 文字や枠囲み等で簡潔に記 されたもの。		①5年上「分数の意味」では、 図やイラストで分数の意味を 示してある。(P163) ②各単元に、学習のポイント が背景色をつけた枠囲みで 示してある。(4年上P94など)	①4年上「2けたでわるわり算 のひっ算」では、数字の計算 を10円玉のイラストで示して ある。(P105) ②2年上から6年まで、巻末 に既習事項や重要語句が簡潔 な文、イラスト等でまとめて 示してある。	①4年下「面積」では、1cmの 面積を、指に乗せた実物大の 工作用紙の写真で示してあ る。(P43) ②5年上「小数のかけ算」で は、筆算の方法を背景色を付 けた枠囲みで示してある。(P 63)	

小学部 算数(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	大日本	学図	
内	各単元の領域別の分量数と計算 ページ数	654	644	689 最多	
	各単元の領域別の分量 図形 ページ数	272	255	296 最多	
	各単元の領域別の分量 測定 ページ数	79	84	102 最多	
	各単元の領域別の分量 変化と関係 ページ数	107 最多	87	105	
	各単元の領域別の分量 データの活用 ページ数	86 最少	98	115 最多	
	各単元の練習問題の数(単元内)	2963	3886	4003 最多	
	巻末における児童の習熟に応じた練習問題のページ数	110.5	65 最少	115.5	
	そろばんを扱ったページ数	5 最少	5 最少	7 最多	
	プログラミング教育を取り上げているページ数	4	8	12 最多	
	発展教材の数	22 最少	27	23	
	学習したことを生活や学習に活用する教材の数	72	66	59	
	容	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。	26箇所 ①1年②「なんじなんぷん」では、代替の手立ての工夫ができる。(P109) ②4年下「箱の形の特ちょうを調べよう」では、身の回りにある箱を分類する活動がある。(P107)	46箇所 ①1年「かずしらべ」では、野菜の数だけ色を塗る活動で、代替の手立ての工夫ができる。(P69) ②2年「数のしくみをしらべよう」では、マンションの部屋番号を使って位置を考える活動が示してある。(P75)	53箇所 ①2年下「2年の復習しよう」では、リング移しの活動で工夫ができる。(P123) ②1年下「くらべてみよう」では、テープを使って机の高さや教室のドアの幅を測って比べる活動が示してある。(P25)
		肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	53箇所 ①6年「対称な図形」では、折りたたんだ紙を切り抜く活動があり、困難がある。(P21)	34箇所 ①4年「垂直・平行と四角形」では、三角定規を二つ使用し作図する活動に困難がある。(P89)	54箇所 ①5年下「いろいろな形の性質を調べよう」では、缶の側面に紙を巻き付け、それをもとに展開図を作図する活動に困難がある。(P129)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 18ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 13ポイント	
	1ページの基本的な文字数	1年最初 24文字×13行 6年最後 32文字×25行	1年最初 22文字×12行 6年最後 28文字×21行	1年最初 28文字×17行 6年最後 30文字×21行	
	欄外の文字の大きさ	1年最初 9ポイント 6年最後 7.5ポイント	1年最初 13ポイント 6年最後 9ポイント	1年最初 12ポイント 6年最後 9ポイント	
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②写真、図表等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①2年上から、巻末に「ふりがなコーナー」として、既習事項がまとめて示してある。 ②3年下「重さの比べ方」では、物の重さを比べている例が写真で示してある。(P23) ③4年上「角のかき方・三角形のかき方」では、見開きで学習できるようになっている。(P68, 69)	①2年から、巻末に「ひとめでわかる! ○年までのまとめ」として、前学年までのポイントが示してある。 ②1年「なんじなんぷん」では、学校生活場面のイラストと時計が時系列で示してある。(P152, 153) ③6年「データの活用」では、「表やグラフを生かそう」の手順を見開きで図示してある。(P76, 77)	①2年から、上巻の巻頭に見開きで前学年までのポイントがまとめて示してある。 ②5年上「三角形や四角形の角について調べよう」では、図形をしきつめて、角の大きさの和を示してある。(P116, 117) ③4年下「小数の筆算のしかたを考えよう」では、文章題から答えを出す手順を左から右に、見開きでまとめて示してある。(P80, 81)	

小学部 算数(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		教出	啓林館	日文	
内	各単元の領域別の分量数と計算 ページ数	652	594 最少	631	
	各単元の領域別の分量図形 ページ数	276	249 最少	259	
	各単元の領域別の分量測定 ページ数	90	77 最少	80	
	各単元の領域別の分量変化と関係 ページ数	93	92	77 最少	
	各単元の領域別の分量データの活用 ページ数	104	92	98	
	各単元の練習問題の数(単元内)	2842	2979	2693 最少	
	巻末における児童の習熟に応じた練習問題のページ数	85	105.5	182 最多	
	そろばんを扱ったページ数	7 最多	7 最多	7 最多	
	プログラミング教育を取り上げているページ数	2 最少	12 最多	5	
	発展教材の数	32	22 最少	35 最多	
	学習したことを生活や学習に活用する教材の数	54 最少	134 最多	65	
	容	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。	56箇所 ①3年下「どんな三角形ができるかな」では、ストローを使って三角形を作る活動で、手立てが工夫できる。(P50) ②1年「いくつかの」では、身の回りにある数を探す活動が示してある。(P22～23)	69箇所 ①4年上「垂直・平行と四角形」では、平行四辺形の厚紙を敷き詰める活動で、工夫することができる。(P83) ②5年「速さ」では、身の回りの乗り物の速さを計算する活動が示してある。(P225)	51箇所 ①2年上「水のかさをはかろう」では、水筒の水を移し替える活動で、補助具が活用できる。(P96) ②3年上「円と球」では、身の回りにある円形や球体を探す活動が示してある。(P128)
		肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	36箇所 ①6年「対称な図形」では、線対称な図形を作図する活動に困難がある。(P42)	46箇所 ①2年下「はこの形」では、切り取った紙を箱に貼る活動に困難がある。(P100)	71箇所 ①5年上「ぴったり重なる形と図形を調べよう」では、コンパスと分度器を使用し作図する活動に困難がある。(P21)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 16ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 12ポイント	1年最初 16ポイント 6年最後 12ポイント	
	1ページの基本的な文字数	1年最初 19文字×14行 6年最後 30文字×26行	1年最初 25文字×12行 6年最後 28文字×21行	1年最初 23文字×12行 6年最後 29文字×26行	
	欄外の文字の大きさ	1年 9ポイント 6年 7.5ポイント	1年最初 9ポイント 6年 7.5ポイント	1年 9ポイント 6年 9ポイント	
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有	
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②写真、図表等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①2年上から、巻末に「学びのマップ」として、上巻には前学年まで、下巻には上巻の学習したポイントをまとめて示してある。 ②2年下「図をつかって考えよう」では、計算式がテープ図で示してある。(P86、87) ③5年「合同と三角形、四角形」では、合同な図形のかき方を左から右に、見開きでまとめて示してある。(P64、65)	①2年上から巻末に、「算数しりょう集」として、学習したことのまとめが示してある。 ②6年「およその形と大きさ」では、大仙古墳の写真に図を重ねて示してある。(P145) ③4年上「角とその大きさ」では、扇を開いたときの角の大きさを左から右に、見開きで示してある。(P12、13)	①2年から、上巻の巻末に「学び方ガイド」、「算数で使いたいことば・考え方」がまとめて示してある。 ②4年上「角の大きさをはかろう」では、分度器のイラストで角度について説明している。(P62) ③6年「対称な図形」では、見開きの日本地図と周囲に配置された県のマークなどを調べる活動を示してある。(P30、31)	